

國學院大學學術情報リポジトリ

デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平藤, 喜久子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000608

「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

プロジェクト責任者 平藤 喜久子

1. プロジェクトの概要

本プロジェクトは、2016年度から2018年度まで実施された「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」の後継的な位置づけのプロジェクトとして2019年度にスタートしたものである。

プロジェクトを中心に研究開発推進機構全体で構築してきた「國學院大學デジタル・ミュージアム」について、研究開発推進機構全体の情報発信の有機的連関を図り、日本文化研究所が蓄積してきた研究成果や学術資産、研究開発推進機構によって実施されている研究成果や各種のデータベース等をデジタル化し、主としてインターネットを通して国際的に発信していくものとして運営していくことが一つの大きな柱とされ、学内の学部・大学院で構築したデータベース等を横断的に公開することにも対応することを目指している。

また、21世紀COEプログラム関連事業として構築したEncyclopedia of Shinto（以下EOS）を拡充させ、神道文化に関する国際的なポータルサイトの構築も引き続き行う。さらに神道および日本文化研究の基礎資料の翻訳、教派神道関係の収集資料の公開など、プロジェクト独自のコンテンツの充実も図ってきた。

デジタル・ミュージアムの機能を、広く大学教育において活用できるものとするための取り組みも行い、スマートフォンを使用した場合の利便性の向上や、動画配信のシステム構築を目指す。また、研究資産を宗教文化教育の教材として展開させていくにあたって

は、2011年に宗教文化士制度の運営を目的として発足した「宗教文化教育推進センター」と連携して行ってきた。なお、宗教文化士制度については、國學院大學も設立当初から参加し、神道文化学部、日本文化研究所の教員が運営に関わっているものである。

また、2020年度に引き続き古事記学センターとは古事記の英訳の作成の面でも協力関係を築いている。

2021年度の本プロジェクトのメンバーは次の通りであった。

[専任教員] 平藤喜久子、星野靖二、吉永博彰

[兼任教員] 黒崎浩行、シッケタンツ, エリック、藤澤 紫

[客員研究員] 丹羽宣子

[ポストドク研究員] 高田 彩、藤井修平、宮澤安紀

[研究補助員] 大場あや

[客員教授] 井上順孝、櫻井義秀、土屋 博、ナカイ、ケイト、山中 弘、ハイヴンズ、ノルマン

[共同研究員] 今井信治、天田顕徳、小高絢子、ガイタニディス、ヤニス、カドー、イヴ、塚田穂高、野口生也、ビュテル、ジャン＝ミシェル、牧野元紀、フレレー、カール、村上 晶、矢崎早枝子

2. 2021年度の成果

(1) デジタル・ミュージアムの運営

デジタル・ミュージアムの運営については、新システムへ移行後も調整拡充を図っている。

<https://d-museum.kokugakuin.ac.jp>

(2) *Kokugakuin Japan Studies* 3の刊行
オンライン英文ジャーナル*Kokugakuin Japan Studies*のno.3については、「日本文化を伝える」をテーマに、次の3点の論文を英訳し、刊行した。

“Public Stage Performances of Folk Performing Arts (*Minzoku Geinō*) in Japan: History, Meaning, and Significance”
OGAWA Naoyuki (小川直之「民俗芸能の舞台公演—その歴史・意義—」『都市民俗研究』24号、2019年2月、1-12頁の英訳)

“The Structure of Iwami Kagura’s Existence in Western Shimane Prefecture”
YAMAMOTO Kenta (山本健太「島根県西部地域における石見神楽の存立構造」『國學院大學紀要』59巻、2021年2月、29-49頁の英訳)

“The Inclusiveness of Festival Culture in the Post-Disaster Rural Community Restructuring Process”
KUROSAKI Hiroyuki (黒崎浩行「災害後の集落再編過程に見られる祭礼文化の包摂性」『國學院大學紀要』59巻、2021年2月、15-28頁の英訳)

内容詳細は、下記URLを参照されたい。

<https://www2.kokugakuin.ac.jp/oardijcc/publications/kjs-03.html>

(3) 宗教文化教育の教材研究の国際的展開

基盤研究 (B) 18H00615「日本宗教教育の国際的プラットフォーム構築のための総合的研究」と協力し教材作成を行った。海外の研究者から神道を学ぶ学生たちのことを知りたいという要望があったため、下記の動画を作成した。

「神職を志す学生の日常」

<https://www.youtube.com/watch?v=ZOKW-iNB4kI&t=600s>

(4) 学生宗教意識調査の実施

学生宗教意識調査とは、日本文化研究所が1995年から2015年まで12回にわたって「宗教

と社会」学会の宗教意識調査プロジェクトと合同で行ってきたものである。

積み重ねられた調査は、若者の宗教意識、宗教リテラシーの現状を知る大規模調査として、研究者に活用されてきたばかりでなく、一般紙誌でも広く紹介されてきた。

今年度は、2020年度に刊行した報告書に若干の訂正が生じたため、改訂した調査結果を再録するとともに、新たに分析論考3編を収めた(本誌トピック8参照)。

(5) 国際研究フォーラムの開催

日本文化研究所全体の催事としては、国際研究フォーラム「日本の宗教文化を撮る Capturing Japanese Religious Culture」を企画し、これに関連してヘイヴンズ・ノルマン氏講演会「日本と宗教：一生の追憶」を開催、写真発明200年記念企画ワークショップ「研究者のための撮影術2—光あれ!」を共催した(本誌トピック1・2・4参照)。

本催事については、2022年度に報告書を刊行する予定である。

(6) 國學院大學博物館企画展「ホワッツ神道—神道入門—」の開催協力

日本文化の海外への発信という趣旨・目的から、國學院大學博物館企画展「ホワッツ神道—神道入門—」(2021年7月～9月)の開催に当たり、共催機関の一つとして各種協力した(本誌トピック3参照)。

国際交流・学術情報発信部門単独での事業は、本プロジェクトで一区切りを迎えることになる。

2022年度は「神道・国学研究部門」との合同事業として「宗教文化に関する研究と学術情報発信の体制構築」を遂行する予定である。国際交流・学術情報発信関連では、これまでに引き続きデジタルミュージアムの調整拡充、*Kokugakuin Japan Studies*の刊行などを検討している。